

授業科目名	日本語教育演習Ⅱ	単位数	1単位
担当教員名	遠藤みどり	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）		
授業のテーマ及び到達目標 母語としての日本語と外国語としての日本語の違いに目を向ける。 (1) 日本語学習者に対する「かな」を中心とした文字指導。 (2) 初級日本語授業を行う際の実習教案の作り方。			
授業の概要 日本語教育関連科目（特に「日本語教授法」）で学んだ知識に基づいて実際の授業をする上での手法を学ぶ。特に読み書きにかかわる文字言語について、どのように指導すれば理解しやすいか、どのような点が習得しにくいかを受講者の考察やグループワークなどアクティブラーニングの手法も用いて検討する。 教案のブラッシュアップに伴い、自分自身の授業を展開できるような実力をつける。			
授業計画 第1回 事前学習で考えてきたことの発表 第2回 ひらがな・カタカナの教え方（日本語教育のための文字と表記、文法指導、日本語の意味体系、日本語語用論） 第3回 特殊音・漢字の教え方（日本語教育のための文字と表記、文法指導、日本語の意味体系、日本語語用論） 第4回 教員による『みんなの日本語 初級Ⅰ』該当文型の実践練習（日本語教育プログラムの理解と実践） 第5回 文型の解説、教授法の解説、教案の解説、教案を作成するうえでの注意点 第6回 『みんなの日本語 初級Ⅰ』該当課の教案作成に関して大切なこと（教室のことば、言語環境の設定を考える、目的・対象別学習者への日本語教育法、コミュニケーション教育、言語運用能力、社会文化能力） 第7回 教員によるフィードバック（1）（評価法を含む） 第8回 1日目に作成した教案について全体、または各グループで共有（学習ストラテジーを意識する、受容・理解能力、対人関係能力） 第9回 演習Ⅰから引き続き、各グループでの教案、教材（PPT）作成（授業計画、教材分析・教材開発、教材作成、著作権、ICT活用） 第10回 教案、教材（PPT）の仕上げ 第11回 該当課のチームティーチング 第12回 教員によるフィードバック（2）（評価法を含む） 第13回 教育実習用教案の作成・教材作成（1）他者の授業分析、自分の授業を点検する能力の育成 第14回 教育実習用教案の作成・教材作成（2）自分自身の授業分析、自分の授業を点検する能力の育成 第15回 教育実習に向けての諸注意、案内			
スクーリングでの学修 4日間にわたり、日本語を外国人に教えるための授業をグループで組み立て、実際にそれをもとに対面授業を行う（模擬実習、教壇実習）			
テキスト ・高見澤孟著「増補改訂版 新・はじめての日本語教育2」アスク出版 ・スリーエーネットワーク編著「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊」スリーエーネットワーク			
参考書・参考資料等 「文字・語彙を教える」国際交流基金 ひつじ書房			
学生に対する評価 スクーリング評価（50%）、科目修得試験（50%）			